



地域愛と、地球愛

心あったかニュース

農林水産省が実施する「アイスカバー農山漁村の宝」は、農村や漁村の持つポテンシャルを引き出し、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる事例を表彰するものです。ことしは全国から約500件の応募があり、このうち30件が優良事例に選ばれています。30件のうち、高校生の受賞が数件あり、グランプリも、北海道幌加内高校で、生徒がそば打ちなどの交流を通じて地元の魅力を広く発信していると評価されたということです。冬期間の気候の厳しさや多雪、酷寒と天候に左右される農業経営の難しさ、都市への流出により急激に人口減少。作付面積日本一の「そばの町」のそば打ち技術や伝統継承が課題。成果は、町民のそば打ち技術や伝統を継承した生徒は、全麵協主催「そば道段位」の初段以上を全員が取得。部活動の「そば局」は全国高校生そば打ち選手権団体戦では過去4連覇を含む7回優勝。町最大のイベント「新そば祭り」では、手打ち

そばを2,000食以上販売、町内の小中学校や海外とのそば打ち交流のほか、地域と関わる機会も多く人口減少の課題にも町民と一緒に取り組むなど地域に欠かせない存在となっている。そばの生産量日本一位という地元の強みをいかし、それを町内小中学生との交流により継承している点が高く評価されたということ。また、優秀賞の群馬県の尾瀬高校は、尾瀬ヶ原を中心としたフィールドワークで、環境保全を学ぶ「自然環境科」を1996年に全国で初めて設置し、生徒を全国からホームステイで受け入れる制度を整えたことなどが評価されました。その制度で、尾瀬高校に通う埼玉県出身で3年生の岩田凌空さんは、屑品の自然の中で暮らすことで改めてその重要性を感じた。自然を守ることの大切さを今後も伝えていきたい」と話しているそうです。2年生の生徒はシカの食害からニッコウキスゲを守るための柵の設置や、尾瀬ヶ原の生態系の研究などにも取り組みたいと今後の意気込みを語っているようです。成果は、地元団体との協働によりシラネアオイ保護活動を30年以上行っているほか、水芭蕉栽培、育成を行う水芭蕉プロジェクトでは地元企業3社と連携、100名が参加。自然と共生できる人づくりを通じ

て机上の学びでは得にくい自己有用感等が向上。柔軟なアイデアの提供と実践活動をとおり、卒業生の多くが地域活性化のために活躍。愛媛県立北宇和高等学校も選ばれた30件のなかの一つです。みま米を使ったライスバーガーやスイーツの商品開発PR活動、J.R予土線を盛り上げるイベントなどこれまでに取り組んできた活動が評価されました。ヤフリーニュース

アイスカバー農山漁村の宝」群馬県の尾瀬高校が優秀賞を受賞で喜びを報告。アイスカバー農山漁村Web参照)

編集後記

若い人達が、地域をよりよくしていこうとする気持ち、地域愛は、大人も頑張ろうという気持ちになり、元気がますます。地域愛そして、国をおもいう気持ち、地球をおもいう気持ちと同じだなと思いました。